

## 患者が変われば 医療が変わる 医療が変われば 地域が変わる



島根益田がんケアサロン 代表  
C・T・V創生研究所 所長 納賀 良一

1937年5月、石川県金沢市生まれ。同志社大学文学部卒。特殊精密機器メーカーの(株)フジキン総務部部长兼改革推進室リーダーを経て、1994年3月、1ターンで益田市移住。益田ドライビングスクール合宿型システム作りを依頼される(カイアの夜明けで放映)。その後、C・T・V創生研究所設立。地域で観光、定住、教育、医療など街おこしを実施。2005年12月、全国初のがんサロン開設。

第40回 ユマニチュードを学んで得たもの

7月、福岡市役所本庁 マニチュードの提唱者、舎5F講堂で開催された フランス人イブ・ジネス市民公開講座「家族のためのユマニチュード講習 定インストラクター」に  
参加してきた。ユマニチュードの提唱者、ト氏(ユマニチュード認定インストラクター)。

## 患者の心と身体を癒す力に

是非お会いしたい方だった。認知症のケアに必要な技法を開発された方で、日本での実践も進んでいる。

会場ではユマニチュードを含むたくさんの体験ができた。医療者、介護者を中心に、わたしたちのような市民が300名ほど集まった。

ユマニチュードの技法は認知症患者を中心としながらも、心を病んでいるどんな病状の方々にも応用が効く。生まれた赤子をあやすがごとくというのが本来のかたちだが、応用編は数多くあるようだ。

基本姿勢は、「目と目を見つめ合う」、「手の距離で相手の目の中に自分

を見る」、「相手のほっぺに手を当てて親近感を相手に伝える」、「相手の肩に手を掛けじっと相手を見つめる」、「ハグをする(ダンスをするがごとく)」、「子供をあやすがごとく優しく背をさする」など。

帰ってから学んだことをある施設で実際に試してみた。施設に入居している認知症の方々は、普段ゆっくりと会話を楽しむ時間があまりないと思う。私は個人的に見学するので時間はたっぷりあり、一人ひとりとゆっくり話しが出来た。30分も話をしていると、無表情だった方にまるで別人のような変化が起きる。これには驚いた。

安心した顔を見るとそれぞれ地域に帰ってあげたくなる。家に帰って過ごすことが出来る社会が作られればいいのに、まだ先は遠い。でもそのような対応をしている地域もあるようだ。

これは看護教育、介護教育にも適用できる。近くにある看護学院の生徒が実習を兼ねてがんサロンに来ているが、どのような病気の患者であれ、このような技法を使って看護されれば患者は嬉しい。どの患者も心と身体を痛めているから。このユマニチュード技法が患者の心と身体を癒す力を備えているのなら、あらゆる患者を助ける力になってほしい。